

**令** 和5年度白糖町文化奨励賞を受賞した笠原茂子さん。言わずと知れた白糖町出身のピアニストだ。町内はもちろん、釧路市内でも多くのコンサートに出演し、積極的な音楽活動を行っている。

「コンサートによって演奏する曲を変えていますので、休む間もなく次から次へと新しい曲を練習しています(笑)。大変ですが、とても充実しています」

笠原さんがピアノを始めたのは小学2年生の頃。担任の先生が弾くオルガンに興味をもったのがきっかけだ。

「オルガンがとても上手な先生で、よく近寄っては聴いていたんです。そうしたら、その先生がピアノの先生のところへ私を連れて行って『この子にピアノを教えていただけませんか』とお願いしてくれました。それですぐにピアノを習い始めたのですが、当時はうれしくてしょうがなかったですね」

笠原さんが演奏するのはクラシック曲。モーツァルトやベートーヴェンなど、多くの作曲家の曲を演奏しているが、中でも特に好きなのはブラームスの曲という。

「ブラームスの重厚さが好きなんです。内面に訴えてくるものがある

って、そういう曲が好きですね。大学時代の恩師である荒谷先生からも『しげねえはブラームスだなあ』って言われました(笑)。もう亡くなられたのですが私のことを“しげねえ”と呼んでいたんです(笑)」

笠原さんが恩師と呼ぶ北海道教育大学の荒谷宏教授は、釧路芸術館の初代館長で釧路の音楽活動団体「ディスクール シュル ピアノ」の創業者でもある。ディスクール シュル ピアノは昨年結成50周年を迎えた。

「20周年の時にプロのオーケストラである札幌交響楽団とモーツァルト作曲ピアノ協奏曲を演奏させていただきました。オーケストラとの共演は、ピアニストにとっては夢のような話でとても楽しかったです」

長年ピアノを続けていてもオーケストラと共演できる機会は多くない。笠原さんがこれまでオーケストラと共演したのは5回。また機会があれば挑戦したいと夢を明かした。

「私は自宅でピアノ教室を開催していますが、そこへ通う子どもたちがみんな音楽の道へ進むかといえばそうではありません。それでも音楽を趣味にしていたり、ピアノ教室へ通ったことを生かして、立派に成長してくれたらと思います。それが私の一番の望みであり夢でもあります」

音楽が自分の人生を豊かにしてくれたと話す笠原さん。

「多くの方が支えてくださるおかげで、素晴らしい賞をいただき、そして今もピアノを続けていられるのだと思います。ピアノとの出会いや恩師、友人、ピアノ教室の生徒、そして家族。私は音楽を通して、本当にすばらしい人たちに恵まれました」



# 笠原茂子

かさらは しげこ

1954年11月17日、白糖町生まれ。北海道教育大学釧路校音楽科卒業後、自宅でピアノ教室を主宰。釧路短期大学の非常勤講師や釧路音楽協会副会長、ディスクールシュルピアノの事務局長を務めている。趣味は映画観賞と読書

## 「オーケストラとの共演はピアニストの夢のひとつ」



ピアノを習っている子どもたちの発表会「しらぬかジュニアコンサート」。笠原さんが実行委員長を務め、2023年8月に初めて開催されました。